



令和8年2月27日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
4年 学年便り 3月号

ともに育む「はばたき」の羽根

4年生の1年間もいよいよ佳境を迎えています。冬休みが明けてからも、特別支援学校との交流会や6年生を送る会など、様々な行事に取り組んできました。

6年生を送る会では、感謝の言葉とともに「キセキ (GReeeen)」を歌って感謝の思いを伝えました。当日を迎えるまでに学年で練習を重ねていきました。出し物で使うことができる5分間という時間に強い意識をもって練習に取り組み、初めは6分30秒かかっていた時間も、当日は4分57秒と時間内におさめ、達成感を感じている子が多くいました。ここに至るまでに「入場の仕方を変えてみよう」「退場も走らずにやった方がいいと思う」「(6年生への)言葉は(急がずに)はっきりと言った方が伝わると思う」など、はばたきの出し物をより良くしていこうと思いを仲間へ伝える子が多くいました。また、「キセキ」を歌う子どもを見ていると、体を揺らしながら思いを込めて歌う子、まっすぐに6年生へと視線を向けて歌う子、精一杯に声を出して歌う子、一人ひとりの向き合い方で思いを込めて歌う姿が印象的でした。

6年生を送る会を終えた後も、学級での振り返りやその日の日記などで「来年は自分たちがきぼうの思い出に残る六送会をつくりたい」「下級生が困らないようにやりたい」「来年は主さい側なので、がんばりたい」といったこの日の自分たちの出し物についてだけでなく、運営してきた5年生の姿から1年後の自分たちを見据えている姿に頼もしく思いました。同時に、5年生に向けて意識を高めていることを嬉しく思います。

また、本日ははばたきカップが行われました。本日の開催に至るまでに、実行委員は先月から休み時間に何度も集まって話し合いを重ねていきました。各学級でもこの活動に向かう上で大切にしたいことを話し合いました。ある学級は楽しい思い出となるように、別の学級では怪我や喧嘩が無いように、また別の学級では勝ち負け関係なく楽しめるように、それぞれの学級で思い思いに考えを出し合い、「はばたき全員で安全に笑顔を増やして楽しい思い出をつくろう」というキーワードをおきました。活動内容を決めていくときには、玉入れや綱引きなど数多くのアイデアが出され、キーワードやこれまでの話し合いを踏まえて考えた結果、借り物競走に決まり実行委員を中心に準備を進めました。こうした「はばたき」という集団で一つの活動に向かっていく中で、勝ち負けではなくはばたきみんなの気持ちを慮る温かさや、学級で活動に向かっていくときは別の一体感、力強さを感じています。このような魅力あふれるはばたきの姿が、この先も様々な場面で表れていくことを願っています。

これまで仲間と共に多くのことを乗り越えてきた中で、誰かと思いを共有することのよさを実感してきたことでしょう。そうした経験を通して自身の羽根を強くし、「はばたき」としても羽根を大きくしてきました。自分たちの思いを大切に、意見を交わすことを恐れず挑戦し、周囲に働きかける、そんな「自らをきりひらく」姿を見せてくれる子どもたちを誇りに思いながら、残された日々も支えていきたいと思えます。